

〈解答〉

- ① (1) 3段 (2) 式： $2y - x$  兄が勝った回数：7回  
② (1) 15通り (2)  $\frac{1}{6}$   
③ (1)  $a = 72$  (2)  $y = \frac{18}{25}x$  (3)  $-3 \leq m \leq -\frac{6}{5}$

配点 各2点 14点満点

〈解説〉

①

- (1) 兄は3回勝って2回負けたので、50段目より

$$2 \times 3 - 1 \times 2 = 4 \text{ [段] 上にいる。}$$

また、弟は2回勝って3回負けたので、50段目より

$$2 \times 2 - 1 \times 3 = 1 \text{ [段] 上にいる。}$$

よって、兄と弟のいる段の差は、

$$4 - 1 = 3 \text{ [段] である。}$$

- (2) 20回じゃんけんをしたうち、あいこの回数が8回、兄が勝った回数が $x$ 回、弟が勝った回数が $y$ 回なので、じゃんけんの回数について、

$$8 + x + y = 20 \quad \cdots \text{①} \text{ という式が成り立つ。}$$

兄は $x$ 回勝って $y$ 回負けたので、50段目より

$$2 \times x - 1 \times y = (2x - y) \text{ [段] 上にいる。}$$

また、弟は $y$ 回勝って $x$ 回負けたので、50段目より

$$2 \times y - 1 \times x = (2y - x) \text{ [段] 上にいる。}$$

兄は弟より6段上にいたことから、

$$(2x - y) - (2y - x) = 6 \quad \cdots \text{②} \text{ という式が成り立つ。}$$

①を整理して、 $x + y = 12 \quad \cdots \text{③}$

②を整理して、 $3x - 3y = 6$

$$\text{両辺を3で割って、} x - y = 2 \quad \cdots \text{④}$$

③、④を連立方程式として解くと、 $x = 7$ 、 $y = 5$ となる。

よって、兄が勝った回数は7回、弟が勝った回数は5回となり、これらは問題に合う。

②

(1)  $m < n$  になるのは,

・  $m = 1$  のとき,  $n = 2, 3, 4, 5, 6$  の 5 通り

・  $m = 2$  のとき,  $n = 3, 4, 5, 6$  の 4 通り

・  $m = 3$  のとき,  $n = 4, 5, 6$  の 3 通り

・  $m = 4$  のとき,  $n = 5, 6$  の 2 通り

・  $m = 5$  のとき,  $n = 6$  の 1 通り

$m = 6$  のときにはないので,  $m < n$  になる場合の数は,

$5 + 4 + 3 + 2 + 1 = 15$  [通り] である。

(2)  $2^m \times 3^n < 50$  になるのは,

・  $m = 1$  のとき,  $n = 1, 2$  の 2 通り

・  $m = 2$  のとき,  $n = 1, 2$  の 2 通り

・  $m = 3$  のとき,  $n = 1$  の 1 通り

・  $m = 4$  のとき,  $n = 1$  の 1 通り

$m = 5, 6$  のときにはないので,  $2^m \times 3^n < 50$  になる場合の数は,

$2 + 2 + 1 + 1 = 6$  [通り] である。

また,  $m, n$  のすべての場合の数は  $6 \times 6 = 36$  [通り] なので, 求める確率は

$\frac{6}{36} = \frac{1}{6}$  である。

③

(1) 点Aの座標は  $(6, 12)$  なので, 関数㉑の式である

$y = \frac{a}{x}$  に,  $x = 6, y = 12$  を代入すると,

$$12 = \frac{a}{6}$$

これを解いて,

$$a = 72$$

(2) 点C  $(10, 0)$  は点Bから  $x$  軸に引いた垂線と  $x$  軸との交点なので, 点Bの  $x$  座標は10である。よって, (1)で求めた関数㉑の式  $y = \frac{72}{x}$  に,  $x = 10$  を代入すると,

$$\begin{aligned} y &= \frac{72}{10} \\ &= \frac{36}{5} \end{aligned}$$

よって, B  $(10, \frac{36}{5})$  である。

関数㉑のグラフは点Bを通るので, 関数㉒の式を

$y = px$ とおき、 $x = 10$ 、 $y = \frac{36}{5}$ を代入すると、

$$\frac{36}{5} = 10p$$

これを解いて、

$$p = \frac{18}{25}$$

よって、関数㊸の式は、

$$y = \frac{18}{25}x \text{ である。}$$

- (3) 点Aを通過して線分BCと交わる直線の傾き  $m$  は、線分BCの両端の点である点Cを通るときが最も小さく、点Bを通るときが最も大きい。

A(6, 12)、C(10, 0)を通るとき、

$$\begin{aligned} m &= \frac{0-12}{10-6} \\ &= \frac{-12}{4} \\ &= -3 \end{aligned}$$

A(6, 12)、B(10,  $\frac{36}{5}$ )を通るとき、

$$\begin{aligned} m &= \frac{\frac{36}{5} - 12}{10-6} \\ &= \left(\frac{36}{5} - 12\right) \div (10-6) \\ &= -\frac{24}{5} \div 4 \\ &= -\frac{6}{5} \end{aligned}$$

以上より、 $m$ の値の範囲は、

$$-3 \leq m \leq -\frac{6}{5} \text{ である。}$$